

令和4年度園評価

目標達成	園の理念、方針、目標を新職員も含め園内研修で再確認、共通理解をすることで保育課程カリキュラム等、日頃の保育に意識した関わりを心がけ、又、令和4年度も引き続き主体的保育、環境構成に取り組む姿勢が見られ、全クラスで目標を立て取り組んでいた。
保育士活動	指針の中での主体的な活動、対話的な学びという事を意識し保育者が主導的に何かをやらせるのではなく、自発的・意欲的に関われる環境構成を考え、言葉かけ等も意識した保育活動を行っていくという活動を心掛けていく姿勢・意欲を感じた。
環境整備	環境整備に関しては室内環境もクラスの状況で動線や集中する玩具等工夫を凝らしていた。完成した園庭で喜んで遊ぶ姿が見られたが年度後半にアスレチックでケガがあり安全面では課題も出てきているのでみんなで話し合い対策を練った。2月に屋上防水工事をした。
衛生・健康	令和4年度も前半はコロナ禍の中での保育となり感染予防、防止を心掛け、感染拡大につながらない様対策を取った。年度後半にはインフルエンザがまん延しクラス閉鎖となり園行事対応や感染防止対策等に追われた年だった。
保護者支援	保護者との関わりも良好で丁寧に関わっている。気になる子や気になる家庭に関しては保護者面談を通して家庭背景を聞き、園と家庭と協働に関わり方を共有することで子どもの育ちに大きく影響する事を伝える。又、虐待等の早期発見など子ども達の様子をよく見て報告をする体制は出来ていた。子育ての悩みや地域の方の保育園に入れたい相談も電話や来園で対応した。又、関係機関との連携も取れていた。
地域との関わり	園目標である「あいさつのできる子」は散歩や来園される方や地域との関わりの中で積極的に出来ていた。令和4年度もコロナ禍の中で地域の小学校・中学校の体験学習の受け入れ中止や施設訪問中止等で地域の関わりがあまり出来なかったのが残念だった。
研 究	令和4年度も「保育実践研究」として副主任・研究チームを中心に主体的な保育環境構成に取り組み、全体園内研修や研究チーム研修で学び合いの時間を持った。職員全員でこども理解がより深まり、又、振り返りの時間が多く持てた。園内研修後は振り返りシートを提出する事で一人一人が保育に関してより意識しての関わりを心がけているのが理解出来た。各クラス取り組んできた事を繋げながら育ちに合わせた環境構成について今後も研究を進めていく。
職員処遇	有休の5日以上消化、週休は年度内で確実に消化するよう声かけをした事で令和4年度も殆どの職員が有休・週休を消化していた。例年の課題ではあるが休憩時間が中々取れない状況にあるのでより工夫をして休憩が取れる環境を今後も考えていく。処遇面では、(処遇改善Ⅰ)は殆どの職員に支給、(処遇改善Ⅱ)はキャリアアップで専門リーダー等が任命を受け処遇を受けた。又、(処遇改善Ⅲ)が国の制度で交付が新たに決定し令和4年度も支給となる。

総括	<p>当園の評価としては職員が理念に基づき、感謝・感動の気持ちを持った職員が多いと感じる。又、子ども達の良いところを見つけ自己肯定感のある子に育てるという意識を持って保育をしている職員も多いと感じる。令和4年度も日々の保育、行事の準備、カリキュラム作成、会議等に追われ、ゆとりや余裕がない様にも見えたので行事等の見直し等も考えていく必要があると感じた。又、ICT化でコドモンシステムを導入した事で日誌もドキュメンタリー日誌に移行しながら写真や動画を配信することでより保育の見える化が進んでいた。生活発表会も年少クラス・年長クラスと2部制で行ったが久々の全クラスの発表会で開催し、こども達の成長に感動し行事を通しての成長を感じた。又、令和4年度は不適切保育や保育士による虐待等が大きくニュース等で流れ、心痛める内容に職員会議でみんな改めて日々の保育環境（人的環境・物的環境）を振り返ると共にこどもを真ん中に寄り添う保育、又、保育士の余裕、ゆとりがもてる働きやすい環境作りを考え、こども達・職員・保護者が笑顔あふれる保育園をみんな考えていきたいと思います。</p>
----	--